

12月の植物

ヒメウラジロ (イノモトソウ科)

学名 : *Cheilanthes argentea* (Gmel.) Kunze

シダ植物は学生時代から苦手だった。植生調査でシダ植物に出会るとほぼベニシダとした。シダ植物は形がよく似ていてなかなか見分けが難しく、観察会でも避けて通ることが多かった。そんな中、十年ほど前、ヒメウラジロというシダ植物に出会った。石垣堀の隙間に生えている小さなシダに先輩がカメラを携え、撮影していた。緑色の楓のような形をしたシダだったが、葉裏を見ると真っ白で美しく、同じく葉裏が白いコシダやウラジロとは比べ物にならなかった。衝撃が走り、懸命にシャッターを切った。それから私の脳裏にいつまでも残った。2021年、岩村政浩先生が「ここにヒメウラジロがあるよ」と案内していただき、民家の居垣にたくさん生えているのを目の当たりにした。あまりにももの美しさに、葉を一枚スケッチした。(図左下) それから4年後、生育場所の記憶を辿って再度訪れてみた。十数株あったのが4株ほどに減っていたが残念だったが「出会えてよかった」と思った。絶滅しないように祈りたい。

ヒメウラジロは葉の裏が白くてかわいらしいのでこの名がついたという。常緑性のシダだが寒地の冬には枯れることもあるという。葉質は厚紙質で無毛、葉裏は紛白色、孢子嚢群は合着し、長く連続する偽孢子で包まれる。岩手から四国、九州の比較的限られた、向陽地の山地、岩上、石垣に稍稀に見られる。県内の西南部に稀に見ることができる。

(文・写真 井手義信)



2024.11.25 鹿島市

参考文献 :

写真でわかるシダ図鑑, 日本維管束植物目録, 日本の野生植物シダ, 佐賀県植物目録 1981